

平成25・26年度
平成24・25・26年度

長崎県教育委員会指定
島原市教育委員会指定

できる喜びを感じる 国語科学習の創造

～「単元を貫く言語活動」を位置付けた授業づくりを通して～

島原市立第五小学校

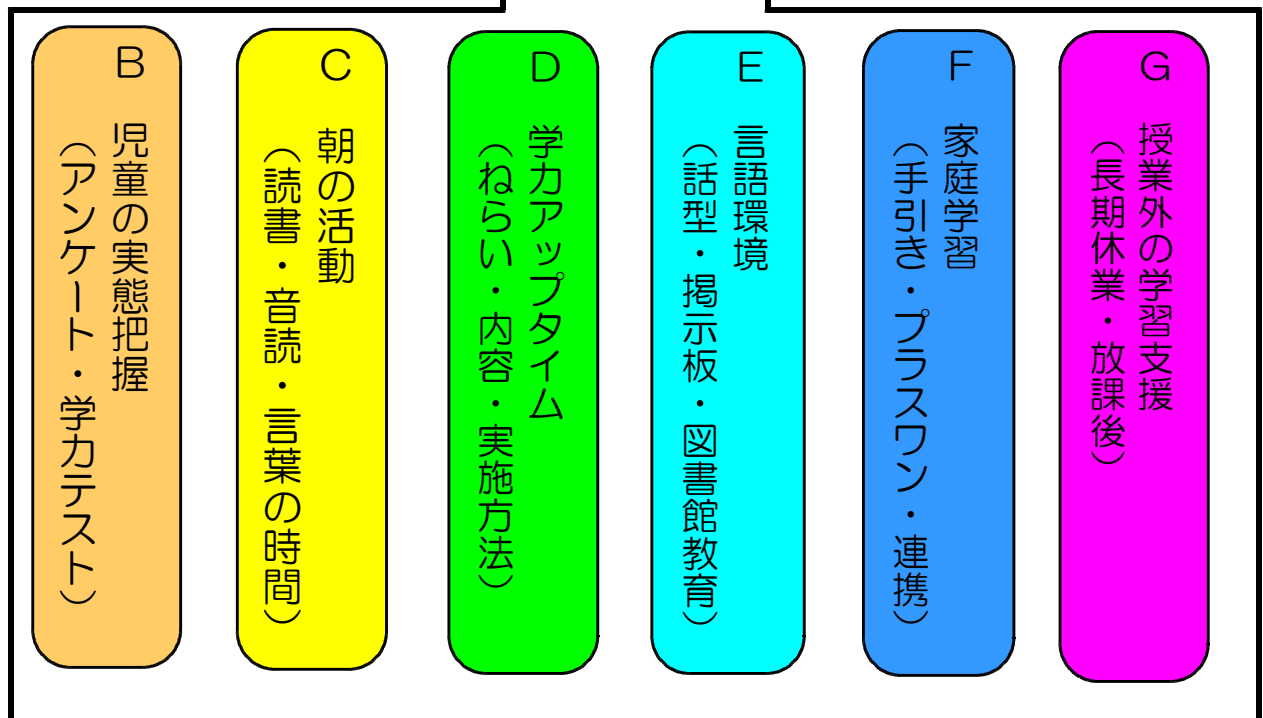
【研究仮説】

単元の重点指導事項にふさわしい「単元を貫く言語活動」を位置付け、学びを活用する授業場面を設けることで、児童が、できるようになった喜びを実感する国語科授業を創ることができるだろう。

【具体的な取組】

A 授業「単元を貫く言語活動」を位置付けた授業
(学習指導計画・ポイント・実践例・板書)

授業を支える6つの柱



I 具体的な取組

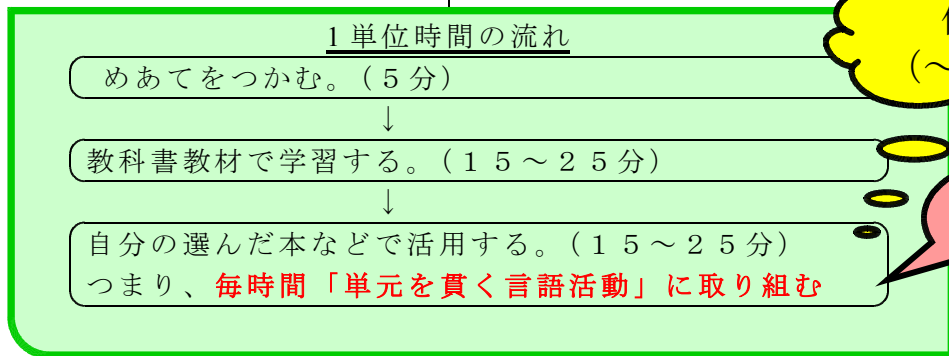
A 授業

読書ツリー



1 学習指導計画

次	主な学習活動	留意点など
一	<p>【大めあて】「単元を貫く言語活動」を設定する。</p> <p>大めあてに取り組むための学習計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none">○ 相手意識や目的意識を明確にした「単元を貫く言語活動」を設定し意欲を高める。○ 児童の手本となる作品例（ゴールの姿）を児童に提示する。○ 設定した「単元を貫く言語活動」に関連する本や作品などを第一次で選ぶ。
二	<p>教科書教材を使って学習し、身に付けた力を活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none">○ 授業で学習した内容を活用しながら、「単元を貫く言語活動」に取り組む。○ 「単元を貫く言語活動」を意識させることで、「～をするために学んでいる」と自覚させる。
三	<p>まとめを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none">○ 第二次で蓄積してきた内容及び身に付けた力を活用する。交流する。



何が
(～の技)

できた

できた

2 学習指導計画作成上の三つのポイント

① 本単元で重点的に育成する国語の能力（重点指導事項）と「単元を貫く言語活動」は関連しているか。

② 毎時間「何が」できるようになるのかが明確か。

③ 活用に時間を十分確保できる計画か。

B 児童の実態把握

【ねらい】

児童の生活実態を把握し、課題を具体的に保護者に伝え、子どもの生活リズムを整えることで、学力向上の土台を整える。

1 アンケート

(1) 生活リズムチェック表（毎月）

生活リズムチェック表を集計し、保護者へ「生活リズムだより」で結果を知らせる。

2 学力テスト

学年	第2・3学年	第4学年	第5学年	第6学年
内容		島原市 学力テスト	長崎県 学力調査	全国学力・ 学習状況調査
N R T 学力検査				

ほぼ毎月ある学級部会で保護者にお知らせ

通信で、保護者にお知らせ
情報共有（保護者・職員）

取組に対する評価
課題の対策を考える

C 朝の活動

【ねらい】

読書に親しむとともに、音読や辞書引きなどに取り組むことで、語彙力を高める。

1 朝の活動の内容

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:10～	読書	音読（教科書）	全校朝会 児童集会	読書	言葉の学習 1
8:20～ 8:30	音読 （音読用詩集）			復習問題 （プリント）	言葉の学習 2 （教科書の言葉の意味調べなど）

2 音読について

- 様々な音読の取組方法を知るために、職員が他の学級の朝の学習を参観する。
- 音読の成果を発表する機会を設定する。（集会で発表）

3 言葉の時間（辞書引き）について

- ・言葉の学習 1…まず、辞書を開き、そのページに載せてある耳にしたことのある言（レベル 1）葉を探し、付箋をできるだけ多く付ける。
- ・言葉の学習 2…国語の教科書を開き、分からない言葉や曖昧な言葉を探して調べ、（レベル 2）付箋を付ける。その際、意味をノートに書いてもよい。

D 学カアップタイム

【ねらい】

毎週火曜日（30分間）に活用問題に取り組むことで、活用力の向上を図る。

1 内容

- これまで学習した国語（漢字学習以外）と算数の内容に取り組む。
- 今学習している以外の内容に取り組むことで、より多様な活用力の向上を図る。

2 実施方法

やる気を高める Aパターン
(低学年におすすめ)

- ①簡単なプリント（5分程度）
 - ・やる気を高める。
- ②事前説明
 - ・説明することで、やってみようという気持ちが向上する。
- ③活用プリント
 - ・少し難しい内容に取り組む。
- ④解答説明（5分程度）
 - ・できたことを褒める。

じっくり考える Bパターン
(高学年におすすめ)

- ①活用プリント
 - ・難しい問題に取り組む。
- ②解答説明
 - ・考え方や解き方を中心に説明する。
- (時間がある場合)
- ③活用プリント
 - ・①と類似問題に取り組む。
- ④解答説明
 - ・①と類似問題のため短時間で説明する。

E 言語環境

【ねらい】

言語環境の整備に努めることで、子どもの言葉に対する感性を磨く。

4つの取組

教室の基本話型表

- 各教室に基本話型表を掲示している。
- 高学年は、話型の発展及び話型からの脱却を目指す。

ノートの掲示

- 授業や家庭学習のノートを掲示し、思考を深めたり、まとめたりするノート作りを目指す。

掲示板の利用

- 児童が関心を持つ掲示を目指して取り組んでいる。クイズなどの問題を多く掲示している。

図書館教育

- 児童が通る玄関に小学生新聞や図書紹介コーナーを設置。
- 図書室の環境を図書ボランティアの協力により整える。

F 家庭学習



【説明のポイント】

- 人数やパーセントなどの数字で伝える。
- 伝える内容を1～2点に絞る。
- 向上している点を探し、褒める。
- すぐに行える内容を伝える。

1 家庭との連携

- 生活リズムチェック表や学力テストの結果などを保護者に説明する。

2 家庭学習の手引き配布

- 年度初めに保護者に説明し、配布する。



【職員の声】

- 統一された内容なので、指導しやすい。
- 毎年ほぼ同じ内容なので、児童も理解しやすいように感じる。



3 プラスワン家庭学習

ねらいと内容

- 全学年、金曜日の宿題に、プリントを1枚追加して配布することで、復習問題に取り組み、学習内容の確実な定着を図る。



担任以外の職員がプリントを選ぶことで、内容が多様になり、効果的な復習となる。例…ローマ字、主語や述語など

G 授業外の学習支援

1 長期休業中の学習支援

夏休み

夏休みの前半…学力向上を図るために、個別指導を行う。

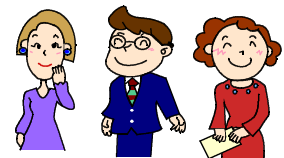
夏休みの後半…スムーズに2学期に対応できるようにするため、勉強会を行う。

冬休み…冬休みの後半に、二日間の勉強会を行う。

春休み…春休みの前半に、二日間の勉強会を行う。

【保護者の声】

- 子どもが勉強がわかるようになったと喜んでいる。
- 勉強会に楽しそうに行っている。
- 家では勉強に集中しないのでありがたい。
- 夏休み中、生活リズムが安定していた。



2 放課後の学習支援（島原市の事業）

毎日、15:30～16:30の1時間、放課後子ども学習室を設けている。児童は、宿題に取り組んだり、学習室にあるプリントに取り組んだりしている。なお、参加は、希望する児童となっている。取り組む時間は、自由であり、児童が決めている。

Ⅱ 授業研究の方法

一日に複数の授業を参観できるので、授業を比較しながら参加でき、共通点や相違点などがよくわかる。

1 研究授業

より多くの先生が授業を公開、参観することで、授業研究の充実を図る。



1日に3本の公開授業 例… 2校時… 3年生の公開授業（中学年部会）
 3校時… 2年生の公開授業（低学年部会）
 5校時… 6年生の公開授業（高学年部会）
 15時30分より会議室にて合同授業研究会

2 授業研究会（ワークショップ形式）

- ① 授業者 指導案説明
- ② 付箋に記入
付箋の色
赤色…改善が必要な計画
黄色…検討が必要な計画
青色…良い計画
- ③ 付箋を拡大した指導案に貼る
- ④ 付箋を貼りながら説明
- ⑤ 付箋を内容ごとにまとめる
- ⑥ 各グループ発表

授業作り
パターン

反省会
パターン

- ① 授業者 授業説明
- ② 付箋に記入
付箋の色
赤色…良くなかった点
黄色…疑問点
青色…良かった点
- ③ 付箋を貼りながら説明
- ④ 付箋を内容ごとにまとめる
- ⑤ 各グループ発表

Ⅲ 研究の成果課題と今後の取組

1 全国学力・学習状況調査の結果 第6学年（全国平均正答率との比較）

国語Bの結果に大きな伸びが見られる。「単元を貫く言語活動」の取組によって、学んだことを教科書教材以外にも活用できる児童が増えてきていると考えられる。

2 長崎県学力調査の結果 第5学年（県平均正答率との比較）

2年連続で県の平均を超えている。特に、記述問題の正答率が高い傾向にある。これは、「単元を貫く言語活動」を設定する際、書く活動を多く取り入れていることが影響していると考えられる。

3 図書貸出冊数（一人あたりの平均貸出し冊数）

	H 2 4	H 2 5	増減
一人平均	8 5 冊	1 2 9 冊	+ 4 4

「単元を貫く言語活動」と図書館教育の充実の成果である。今後も年間 130 冊程度の貸出しを目指す。

課題

今後の取組

授業について

○ 話し合いの時間が長くなり、活用の時間がなかなか取れない。

○ 様々な「単元を貫く言語活動」に取り組みたい。

授業を支える柱について

○ 朝の活動などをより充実した内容にしていきたい。

○ 家庭との連携を深めたい。

その他

○ 学力をもっと向上させたい。

○ 語彙力を向上させたい。

→重点指導事項を意識する。

→国語の授業を2時間連続で行い、活用時間を確保する。

→参考文献を中心に調べ、まずやってみる。

→校内研究の時に、ワークショップ形式の話し合いをして、様々な活動案を考えていくのも一つの方法である。

→伝える相手を学級の中だけとするのではなく他学年や保育園、高齢者の施設など様々な相手を考えてみる。

→まず、活動を見直し、削減した上で、質の向上を目指す。

→保護者が集まる機会に、校長、教頭、研究主任が話をする。特に、保護者が家庭でやってみたいと思う内容や、声掛けなどの工夫で子どもに変化が見られたという成功談などを伝える。

→選択式の問題の正答率が、全国平均と比較して低い傾向にある。学力アップタイムで多く取り組むことが必要である。

→学力の課題について、全職員で共有することをより徹底する。

→慣用句やことわざに触れる機会が少ない。教師が普段から意識して使うことが一番の方法である。また、掲示教育で重点的に取り組んでいくことが必要である。